

が動いている。よくよく見ると親狐が目がかがやかし、口をひらき、しっぽで戸をたたき、次に板戸にすりつけ、夜ばい男そっくりの仕わざ。戸口を開ければかみ殺そうとする形相だ。思わずぞっとして身ぶるいたが、怒鳴りつけたら狐は山へ逃げていったとお。狐は執念深いやつだとじいさんはこのことをよく孫たちに話してくれたんだとお。